

生命の倫理

責任者：山藤 賢
学年・学期：第1学年・後期

単位数：1単位(30時間)

◆一般目標(GIO)

医療従事者は、命にかかわる仕事としての倫理観が必要とされる。講義を通して、「死」というものに向き合うことで、自分がこの世に生を受けていることの尊さ、「生きる」ということに対する考えを深め、医療人としての在り方を考える時間としたい。また、インフォームドコンセント、リビングウィルなどをはじめ、生命の尊厳について考え理解を深めたい。自分の将来の臨床検査技師像を描けるような時間となることを期待する。

◆到達目標(SBOs)

1. インフォームドコンセントについて理解を深める。
2. インフォームドコンセントについて理解を深める。
3. 死生学について理解を深める。
4. 「死」について理解を深める。
5. 「生きること」について理解を深める。
6. 医療従事者としての在り方について理解を深める。
7. 臨床検査技師としての在り方について理解を深める。

◆学習方法

ディスカッションを中心に、学生自身が積極的に参加する形の講義とする。

◆評価方法

出席、授業態度、課題、レポートなどにより総合的に評価する。

◆教科書

『夜と霧』 V. E フランクル 著 池田 香代子(訳) みすず書房

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	死生学について①	ディスカッション形式中心	山藤
2	死生学について②	〃	〃
3	生命の尊厳について①	〃	〃
4	生命の尊厳について②	〃	〃
5	シュミレーションワーク①	シュミレーションワーク	〃
6	シュミレーションワーク②	〃	〃
7	シュミレーションワーク③	〃	〃
8	シュミレーションワーク④	〃	〃
9	医療人としての在り方①	ディスカッション形式中心	〃
10	医療人としての在り方②	〃	〃
11	臨床検査技師としての在り方①	講演	〃
12	臨床検査技師としての在り方②	〃	〃
13	臨床検査技師としての在り方③	〃	〃
14	総括①	まとめ	〃
15	総括②	〃	〃